

北朝鮮や中国 脅威反映

拓殖大海外事情研究所の川上高司所長（安全保障論）の話 昨今の北朝鮮情勢や中国の脅威を反映して、憲法改正の機運が高まっている印象だ。世論調査結果からは「憲法9条は必要だが、自衛隊の位置づけを明確にする必要がある」「自衛隊は専守防衛に努めるべきで、海外展開は好ましくない」との意識が読み取れる。世界的に見れば自衛隊は軍と変わりなく、憲法に明記した上で歯止めをかけるべきだと私は考えている。そうしないと憲法が形骸化する。日本周辺の安全保障環境が緩和する予兆は見えない。憲法改正は拙速にはできず、自衛隊の役割など具体的な議論を国民的に始める時期に来ている。